2012 年 7 月 1 日

青森大学･短期大学ニュース No.22

青森大学ルネッサンスを進めよう

学長　崎谷康文

はじめに

本年 4 月、第 7 代の青森大学学長に就任し、「青森大学ルネッサンス」を進めよう、と呼びかけてきた。3 月 30 日の青森山田学園の全体会議で、青森大学ルネッサンスという目標、その考え方、進め方について、ご説明し、4 月 18 日の部長会において、さらに、具体的な見解をお示しした。青森大学と学校法人青森山田学園にかかわる皆様には、是非とも、大学学長としての私の目指すところを酌みとっていただき、前向きに動いていただきたいと切に願っている。

青森大学ルネッサンスとは

ルネッサンスは、14 世紀から 16 世紀にかけてイタリアを中心に興った、古代ギリシャ・ローマ文化を復興し、新しい文化を創造しようとする、革新的な運動である。覚えておきたいのは、ルネッサンスは、静止した状態を目指すものではなく、絶えず改革を求める運動であることである。

青森大学ルネッサンスは、青森大学の再興と新生を目指す活動であり、どこかに到達すれば終わるものではない。青森大学が大学としての基本に立ち返りつつ新しい時代を切り開いていく。その姿がはっきりと見えるようにすることが、青森大学ルネッサンスという目標の意味である。

青森大学ルネッサンスの理念（考え方）

（１）基本に返る　原点を大切にする

青森大学ルネッサンスの考え方として、まず、基本に返ること、原点を大切にすることが大切である。

青森大学は、昭和 43 年に設立され、当初の経営学部に加え、今や、社会学部、ソフトウェア情報学部、薬学部を加え、文系、理系の４学部の総合大学である。設立当初は、ベビーブームの世代が大学入学を迎える頃であり、大学進学率が上昇している時期であった。学校法人青森山田学園は、昭和 37 年に青森短期大学を設立していたが、四年制大学を設立することとし、地域の期待に応えて、青森大学を設置した。設立以来、青森大学は、地域社会と密接な連携をとりつつ、教育研究の充実を図り、地域社会に貢献し、日本で、世界で活躍できる人材の育成に成果を上げてきた。

このような建学の基本理念に立ち返りつつ、地方の私立大学として培ってきた伝統を生かし、一層の充実発展を図ることが何よりも必要である。

（２）時代を先取りする

青森大学は、平成 24 年度が創立 44 年目である。その間の時代の変化は、極めて著しい。大学進学率は全国的に上昇し、５０％を超えているが、少子化の影響で、大学、特に私立大学を囲む状況は、深刻と言って

いいほど、厳しい。少子高齢化に加え、都市化の進展、核家族化の進行などもある。情報化や交通通信の革新と充実などで産業構造も大きく変わってきており、大学の教育研究に求められるものは、常に変化している。

青森大学は、少子高齢化、科学技術の進歩などの時代の変化に応じて、新しい学部や学科を作ってきた。教育研究の内容も時代の要望に応じ工夫改善を続けたことは、間違いがない。しかし、時代の後を追うだけでは不十分であり、これからは、むしろ、時代の変化の一歩前を進むことが必要となる。

青森大学は、時代を先取りする大学に変わっていくことが必要である。

（３）大学の魅力を高める

基本に立ち返り、時代を先取りする大学として、青森大学は、魅力を高めていかなければならない。大学は、立ち止まっていてはならない。教育研究活動と社会貢献活動を常時刷新し前進していかなければならない。このような、生き生きと輝く、大学の姿を広く地域社会に向けて発信し、存在感を示す必要がある。大学の魅力がはっきりと見えるようになってこそ、地域の人々に信頼される大学になることができる。

青森大学ルネッサンスの手法（進め方）

（１）一人ひとりが力強く能力を発揮する

青森大学ルネッサンスの担い手は、青森大学を構成するすべての教員、すべての職員、そしてすべての学生である。教員・職員・学生の一人ひとりが持てる力のすべてを出し切ることが必要である。現実の一人ひとりの個性と能力はさまざまであるが、誰もが積極的な向上心を持って、自分の能力を伸長させようとする努力を続けることが大切である。

（２）組織の総合的な力量を高める

個人プレーだけではなく、組織プレーが必要である。すべての構成員が課題意識を共有し、相互の連携と一致協力を進める体制を築くことが肝要である。教員・職員と学生が、青森大学ルネッサンスへ向かって心を合わせて行動することによって、青森大学の組織としての総合的な力量が高まる。

（３）地域社会との連携を図り、信頼を得る

大学大衆化の時代が到来しており、大学の機能は多様化している。青森大学は、地域に根ざし、地域とともに生きる大学である。青森大学が行う、人材の育成・教育・研究活動等を通じ、地域社会の発展に貢献することが肝要であり、それにより、地域の人々から確固たる信頼を得ることができる。青森大学は、地域社会の活性化と発展にとって、なくてはならない存在となる必要がある。

具体的な進め方

青森大学ルネッサンスを具体的に進めるには、次の３点について考えることが必要である。

① 進めるべき活動を体系化し、全体の形が見えるようにすること。

教育、研究、社会貢献などの様々な活動がばらばらに考えられていては、無駄が生じ、また、漏れが出る。項目別に整理し、関連性を示すなど、大学としての活動を体系化し、全体の姿が見えるようにしなければならない。

② すべての活動について、進行管理を的確に行うこと。

物事を進めるには、早期に準備をし、順次段階的に計画を実施していくことが必要である。その場合、あらゆる段階において、中途の検証と分析が不可欠である。それにより、常に改善を図りつつ着実に進めていくことができる。

③ 最後の詰めー目標達成ーまで全力を尽くし確認すること。

目標を定め、動き出した活動は、最後の詰めまでしっかりと確認することが大切である。ともすれば、終わり近くで気がゆるみがちになるが、詰めを怠ってはならない。最後まで全力を尽くしてこそ、次の活動へ進むことができる。スローガンの言いっぱなしは許されない

心得るべき基本

青森大学の教職員は、現在、ありとあらゆる組織や団体について求められている基本を心得ておく必要がある。

① 組織統御の体制確立（ガバナンス）

ガバナンスは、企業統治とも言われ、組織における意思決定、執行、監督に関わる体制が整って、機能していることである。青森大学において、学長の指導力が発揮され、各学部等が連携協力して、教育研究活動等が確実に実施され、組織統御が円滑に行われる体制を確立する必要がある。

② 法令遵守と使命感・倫理観（コンプライアンス）

企業や組織体におけるコンプライアンスとは、様々な業務を実施するに当たり、法律や規則を守るとともに、使命感と倫理観を持って、正しく行動することである。特に、財務や権利義務などに関しては、明文の根拠は何かを確認して具体的行動をとることが大切になる。

③ 透明性と説明責任（トランスペアレンシ―）

トランスペアレンシーとは、要するに、隠さないことである。外部からもよく見える状態を保つことが必要であり、透明度が高くなると堂々と外に向かって説明ができ、説明責任を果たすことができる。説明責任は、アカウンタビリティとも言われるが、青森大学は、学生や地域社会の人々に対し大きな説明責任を負っている。

意思決定の在り方

青森大学は、自立した教育研究機関であり、大学としての意思決定を明確に行い、決定した事柄を着実に実施するとともに、常に点検評価を加え、改善方策を打ち出していく必要がある。

① 大学に関する事項については、大学の自立性にかんがみ、学長に集約して決定し実行する必要がある。教育研究等の大学の任務に関することは、各学部等の実態や教職員の意見等を踏まえ、最終的に、学長が明快に判断できるようにする必要がある。

② 青森大学を設置する学校法人青森山田学園は、大学の自立性を尊重して、大学の教育研究活動等が学長の指揮の下で的確に行われるよう、支援し援助する責任がある。学校法人と大学とが常に意見と情報を交換して、意思疎通を緊密にすることで、設置者としての法人の責任が適切に果たされなければならない。

③ 青森大学と学校法人青森山田学園は、それぞれ重要な責任を負っており、それぞれの役割を明確にするとともに、健全で建設的な関係を構築して、一体的に活動ができるようにすることが、青森大

学の再興と新生にとって、そして、青森山田学園の体制立て直しにとって不可欠である。

青森大学ルネッサンスは、もう動き出している。今一度、確認していただきたい。

次に、私が、青森大学の学生に身に付けてほしいと考える三つの力の意味を理解していただきたく、４月２日の入学式のあいさつ文を掲載する。

式辞

青森大学への入学を許可された皆様、ご入学おめでとうございます。

青森から見上げる大空にみなさんの夢と希望を大きく描いてください。

初心を忘れず充実した大学生活を送られるよう心から期待しています。

青森大学の教員、職員すべての関係者が皆様を歓迎し、皆様が大学生として目標の達成に向かって力一杯励んでいかれるよう、お手伝いしたいと考えています。

大学は、高等学校までの学校と連続すると同時に、異なる性格を持っています。学問の府であり、高等教育機関として、新入生の皆様がこれまで身に付けてきた経験と知識、技能をさらに高く引き上げていくことが重要な使命です。

私は、青森大学の学長として、大学生となった皆様に、今から申し上げる三つの力を付けていただきたいと願っています。

一つは、**生涯をかけて学び続ける力**です。経済社会は変転極まりなく、科学技術の進歩は著しく、学ぶべきことは次々に生まれています。知識社会とも言われる今日、大切なことは、基礎基本をしっかりと繰り返して理解すること、そして広い視野と確かな教養を持って深く考えることです。生涯にわたり学び続ける力を培うためには、知的好奇心を持って次々と新たな課題に挑戦していく積極性が求められます。

次は、**人とつながる力**です。昨年３月１１日のマグニチュード９の東日本大震災からの復興が大きな課題となっています。地震、津波などの大きな被害から復旧、復興を図っていく努力の中で、親と子のきずな、家族のつながり、友人との心のふれあいなど、人と人がお互いに助け合い、思い合うことの大切さが見直されています。

大学では、先生、友人、家族など多くの人々と、様々な場面でつながっていく機会があります。大学生活において、友達の輪を広げ、人とつながる力を付けることは、社会でたくましく生きる原動力になります。人とつながる力の基礎は、古典を読む、手紙を書くなどにより身についてくる、確かな言語能力、人の話をしっかりと聞き、誠意を持って話し、接することができる、コミュニケーション能力、コンピューターなど最新の情報技術を活用して、豊かな表現ができる能力などです。言語能力、コミュニケーション能力、表現能力を持つことは、人とつながり、社会の一員として生きていくために不可欠です。

３つ目は、**自分自身を見据え、確かめる力**です。誰にも得意不得意はあります。現代社会は、競争社会であるとも言われますが、すべてが一つの尺度で決まるわけではないことは、十分に覚えておく必要があります。失敗して悩み、どうしてよいか分からず悩むことは、悪いことではありません。悩み、考えることで、一歩ずつ前へ進むことができるのです。苦しい経験も次の自分を作るための糧となり、礎となると考えることが大切です。自分を肯定的に見つめ前向きに考えていく力を持つことは、人間として成長するために必要なことです。自分の性格や能力をしっかりと見据え、自分に自信を持って、未来へ向けて努力することを皆様に期待します。

今、私がお話したことは、孔子が、論語の冒頭で、述べていることとほとんど同じ、人生にとって大切な三つのことです。学びて時にこれを習うまたよろこばしからずや、朋あり遠方より来るまた楽しからずや、人知らずしていきどおらずまた君子ならずやと、孔子は言っています。

かくいう私も皆様と同じくこの４月に学長に就任したばかりです。皆様とともに、青森大学がこれまでの伝統をさらに伸ばし東北日本の光輝く大学としての魅力をますます高めていけるよう、精一杯努力したいと考えています。青森大学の教員、職員すべてのスタッフは、新入生の皆様が生涯をかけて学び続ける力、人とつながる力、そして自分自身を見据え確かめる力をしっかりと身に付けていかれるよう、有意義な大学生活を過ごされるよう、全力で取り組んでいく覚悟です。

ご入学おめでとう。ともに、努力しましょう。

平成２４年４月２日

青森大学学長　　崎谷　康文

次に掲げるのは、「教育プロ　平成 24 年 5 月 15 日・22 日号」に掲載した「時評」である。ご参考になれば幸いである。

時評

秋入学への移行はできるか

東京大学の浜田純一総長が大学への入学時期を全面的に９月に変更することを検討すると発表し、東大では、平成２３年４月、「入学時期の在り方に関する懇談会」が検討を始めた。東大が秋入学へ全面的に移行しようとする目的は、地球規模の国際化に対処し、国際社会で活躍できる人材を育てるということに尽きる。日本では、３月卒業で４月入学の春入学なので、秋入学の欧米の制度と半年近くずれており、欧米の大学への留学、外国から日本の大学への留学に支障がある。秋入学に移行すれば、疑いなく、留学が双方向で増え、高校卒業から大学入学までの猶予期間に日本人学生は様々な体験を積むという利点が生じる。これが東京大学の主張である。

東京大学は、北海道大学、東北大学、名古屋大学、京都大学、大阪大学、九州大学、慶応義塾大学等に呼びかけ、協議体を結成しようとしており、また、経済界では、経済団体連合会などが、国際社会に通用する人材の育成が必要との観点から賛意を示した。政府も、国家戦略会議において、高校卒業から秋入学までの半年間や企業の採用時期の問題などについて検討するとの方針である。

言い出したのが東京大学であることで、乗り遅れまいとする意見表明も多い。他方、問題点をきちっと整理して冷静に議論すべきとの考え方も示されている。いくつかの問題点が指摘されている。秋入学にすれば、当然に留学生が多くなり国際化が進むのか。秋までの半年で十分な社会経験が得られるのか。初等中等教育との接続はどうなるか。経済界は、就職慣行を弾力化できるのか。

外国の高校や大学との接続を円滑にし、優秀な人材の交流を図るという狙いであるが、外国の優秀な学生が日本に留学してこないのは、入学時期が理由であるのか、疑問である。教育研究環境が優れており、研究成果が学術論文等に明確に示され、大学の評価が高ければ、自然と優秀な人材が集まるであろう。また、日本人学生が高校や学部を卒業して、外国の大学や大学院へ留学する場合、半年の猶予期間は、準備や移行の上では都合がよいとも言える。本質的に大事なのは、教育研究の充実である。逆に、外国からの留学生に対しては、準備や猶予の期間がない方が教育的に適切であると言い切れるのか。

日本から外国への留学が減っているのは、入学や卒業の時期があるからではなく、むしろ、若者を始め関係者の内向き志向が強いことが主な原因である。時期が変われば積極的になるとは考えられない。

東京大学は、入学までの半年間を海外での異文化体験などで過ごせば、学生の積極性が育つとする。これをギャップ・タームと呼ぶのは、和製英語であり、最初の頃は、浜田総長は、正しくギャップ・イヤーと呼んでいたのに、途中で変わった。私が英国の大学に留学していた１９７０年代に、ギャップ・イヤーという言葉を聞いた覚えはない。ギャップ・イヤーは、多分、４０年くらい前から英国などで広まってきた慣行である。東大が考えるギャップ・タームとは似ているが、異なる。英国の慣行は、大学合格者に、本人の申し出により一年間の入学猶予を認めるもので、一律ではなく、高校卒業後すぐに大学に入学する者も多い。一年間の経験が大学卒業時の評価につながり就職にも有利と考えれば、ギャップ・イヤーを選ぶ学生が増えるが、一年後は学費値上げなどが予想されるとなると、ただちに入学する学生が増える。現在の制度で、東大が、合格者は一年後に入学することも選択できることに改めることはできる。

東京大学の主張は、大学だけを９月入学にする必要があるというもので、高等教育と初等中等教育との接続についての考慮がない。大学が９月入学であれば、小・中・高等学校も９月入学に改めることが自然で、外国の学校との間の転校が円滑になる。東大としては、大学だけが国際化の波に遅れなければよく、初等中等教育の学校は、多少の不便があってもいいと考えているのであろうか。

東大の懇談会は、３月２９日、「将来の入学時期の在り方について―よりグローバルに、よりタフに―」との副題を持つ報告書をまとめた。報告書は、新たな教育システムの実現に向けては多くの課題が依然として残されていること、また、入学時期の変更が社会的影響の極めて大きい問題で、学外の幅広い理解と協力が欠かせないことが確認され、今後、本報告書を学内外における議論のたたき台として有効に活用したいと述べている。

現行の制度において、学年の始期及び終期は、学長が定めることとなっており、４月に加え、９月又は１０月（学期の初め）に入学を認めることは、大学の判断でできる。東京大学では、平成２３年度に入学者全体の８・６％に当たる４３８人が１０月入学である。国際教養大学など、１０月入学を進め、国際交流の成果を上げている大学もある。東大の報告書は、４月入学と１０月入学が併存すると、入学試験やカリキュラム編成において、余分な時間やコスト、さらには混乱が生じる恐れがあると述べている。東大が一律に秋入学を求める理由として本音のところは、このあたりにあるのではないだろうか。

東大の問題提起は、大学の改革意欲を示し、各界に一石を投じた。しかし、大衆化の時代を迎え、東大のように、世界のトップクラスの教育研究活動により、国際社会に活躍する人材の育成が期待される大学もあれば、地域社会と連携した教育研究活動により地域を担う人材の育成に貢献する大学もある。大学の役割、機能の多様化の状況を十分認識した検討が必要である。　　（崎谷康文）

学長の活動（平成２４年４月～６月）

[随筆・評論等]

青森大学ホームページの学長ブログ

随想「大空を見上げて」
第１回「春を待ちつつ」
第２回「春の気分」
第３回「寺山修司と祖国」
評論「学びの温故知新」
第１回「教育政策を考える基本」
第２回「教育改革の考え方」

時評「原子力行政体制を考える」『教育プロ』平成 24 年 4 月 3 日・10 日号，株式会社 ERP
時評「秋入学への移行はできるか」『教育プロ』平成 24 年 4 月 3 日・10 日号，株式会社 ERP
「国立能楽堂の役割と展望」『能と狂言』第 10 号，能楽学会編

[講師等]

国立劇場おきなわ設立時の状況についての座談会（国立劇場おきなわ運営財団）（４月６日）
青森大学生涯学習講座（講演「日本の文化財と世界遺産」６月２２日）

[社会的活動等]

公益財団法人文化財建造物保存技術協会理事（理事会６月１２日）
公益財団法人がん研究会評議員（評議員会６月１５日）
日本イコモス国内委員会監事（理事会６月１６日）
日本イコモス国内委員会第８委員会委員長
日本イコモス国内委員会世界遺産特別委員会委員（特別委員会６月１６日）
姫路城大天守保存修理検討会（姫路市）副会長（検討会５月１６日）

青森大学･青森短期大学

[第19回 寺山修司忌]

青森大学･青森短期大学の校歌は、寺山修司の作詞である。その縁により、寺山の祥月である 5 月、第 19 回「寺山修司忌」が以下の日程で行われた。

日時:平成 24 年 5 月 23 日(水) 10 時 30 分～12 時

場所:青森大学 4 号館 校歌 歌碑前

内容:第 1 部 式典 （挨拶、献花、偲ぶことば、校歌斉唱等）

第 2 部 特別パフォーマンス「寺山修司へのオマージュ～われに五月を～」

今年度は、崎谷新学長の下、新しいスタイルで寺山の偉業に想いを馳せる一日となった。ゲストには寺山とゆかりの深いお二人、三沢市寺山修司記念館館長で詩人の佐々木英明氏、舞踏家の福士正一氏をお招きした。ライラックの香る校歌歌碑前に、約百名の学生（大学･短大）と教職員が集い、寺山の作品を朗読し、校歌を斉唱した。

第 2 部では、ゲストの方と学生たちの共演による「寺山修司へのオマージュ～われに五月を～」(構成･演出 佐々木英明) が奉げられた。

第 1 部「私の好きな作品」(学生が選んだ寺山作品) の朗読

…杉澤菜穂子(経 4)、三上絢佳 (ソ 2)、佐藤翔太朗 (社 2)、加藤舞(短 2)

第 2 部「寺山修司へのオマージュ～われに五月を～」

…海沼有紗 (社 3)、柴田志帆 (薬 1)、筒井葵 (薬 1)、吹田拓也 (短 2)

来年は、寺山修司没後 30 周年。青森市で、唯一行われている本学の「寺山修司忌」は、故郷の鬼才寺山修司に想いを馳せる意義ある行事となっている。

[青森大学名誉教授に新たに 3 名]

昨年度を以て退職された末永洋一前学長、奈良安規前社会学部長、及び佐藤栄助前薬学部教授の 3 名が、6 月 1 日付で名誉教授に青木正久教授が退職されました。末永前学長は、1974 年の赴任以来産業研究所、総合研究所の所長、研究紀要の編集長を多年にわたってされ、経営学部、大学に多大な貢献をされました。6 月に名誉教授に推戴されました。青木教授は、1991 年赴任され 20 年間教育に尽力されました。長年にわたる経営学部の発展に対し末永教授、青木教授に感謝申し上げます。

［世界遺産縄文講座を開催］

世界遺産登録を目指している縄文遺跡群の価値や魅力を次の世代に伝えるため、6 月 22 日に青森大学記念ホールにおいて「世界遺産縄文講座」が開催された。最初の講演では崎谷康文青森大学学長が、「日本の文化財と世界遺産」をテーマに講演し、文化財保護法により、我が国の有形文化財や無形文化財が保護されている仕組みや世界遺産条約が顕著な普遍的価値を有する世界の文化遺産と自然遺産を保護していることなどが紹介された。続いて青森県教育庁文化財保護課の岡田康博課長が「縄文遺跡群の顕著な普遍的価値」と題して講演し、三内丸山遺跡などの縄文遺跡群の重要性について解説が行われた。この講座には約 330 名の方が参加し、大盛況であった。

大　学　院

【青森県スクラム体験推進事業への参加】報告：藤田　均・大学院研究科長　教授

スクラム体験推進事業というのは、青森県教育委員会（青森県教育委員会生涯学習課）、自然体験活動を行っているNPO及び企業がスクラムを組んで、青森県の子どもたちに『社会性を高め、生きる力を育む体験活動を提供する事業』のことで、平成19年度からの3ヶ年はモデル事業のマニュアル作り、22年度からの3ヶ年は事業実施のための仕組みを県内各地に普及し、支援体制整備を進めている。青森大学大学院は当初の平成19年度からこの事業に組織参加しており、このコーディネーター役として藤田が会長を務めている。提供する体験活動のマニュアルは既に本にまとめられており、その本から、県内全市町村の教育委員会を介して、小学校や地区子供会等から出前講義や科学実験、自然観察会などの要望が寄せられる。それに応える形で今年度も8つの体験活動を無料で提供することが決められた。具体的には、地域の偏りを無くすように考慮して、7月には脇野沢子ども教室あてにホタルの観察会、蓬田村子ども相手の東北電力・日本原燃によるエネルギー実験の出前講座、8月には弘前高杉公民館の子ども教室相手のテイクオフ三沢による科学ショー（液体窒素によって凍った花による各種体験など）の実施、階上町小中学校生相手のペットボトルのロケットの製作と飛ばし体験、五戸町遊びの広場の子ども相手の川下り体験等々の実施である。

来年度にはこの6年に及んだ事業は終了となるが、今度は県教育庁生涯学習課が窓口となって県内の市町村教育委員会からの要望を受け、企業や自然観察会指導者の会からなるNPOを紹介して、体験を希望する子ども会などに体験活動を提供する事業が続けられていくことになっている。

［平成２３年度大学院の修論発表会と修士の学位の授与］

秋修了生高橋純一君（修論題：青森県上北地域及び青森市内におけるビスフェノールA、エストラジオール、界面活性剤の分析）及び蔡萌君（同：北京の環境政策における都市公園利用のあり方）が7月及び9月に修士論文の発表を行い、平成23年9月23日の修了式で修士の学位が授与された。

続いて春修了の工藤圭（修論題：スポーツフィッシングにおける環境教育に関する一考察）、張旭（同：中国フフホトにおけるエコツーリズム普及への提言）、一条直（同：末梢血流量改善作用を有する食品の可能性）、大内香織（同：ドジョウのメタボリックシンドロームの予防・治療薬への期待）及び神名川博史（ドジョウ成分のNO産生阻害活性の検討）の5人が2月８日に学内で修論発表会を行った。これら5人には3月９日修了式が行われ、修士の学位が授与されている。

［実習報告］

〈インタープリテーションの野外実習〉5月 24-25 日。2年必修。実習地：十和田湖、奥入瀬、蔦野鳥の森（蔦温泉泊）。参加：大学院2年4人。引率：藤田。内容：自然解説としての風景の見せ方として必要なブラインド効果の修得（十和田湖）、一般的インタープリテーション（自然解説法の1つ）の事例紹介（奥入瀬、蔦野鳥の森）及び院生各自によるインタープリテーションの企画と実施。今回を持ってインタープリテーション技術の修得は終了となった。

写真　十和田湖との劇的な出会い（中湖の旧展望台）

十和田湖中湖の見える旧展望台までの路は森に覆われており、十和田湖がまるで見えない。ブラインド効果である。森を抜けたとたん、眼前に大きく十和田湖が姿を現し感動を覚える。このブライド効果の体験と技術の習得を目的としたものである。写真は参加した大学院生4人。

写真　ツキノワグマの冬眠についてのインタープリテーション

蔦の月沼の裏手で大量のクマの糞を発見した。その近くの石の洞に熊の臭いも着いていたことから、クマの冬眠の様子を思い浮かべるインタープリテーションを行った（冬眠を確認する自然解説）。

〈6月の学外実習〉6 月 28 日（木）には弘前地区環境整備センターでの実習が予定。（次回報告予定。）

［青森大学自然学校報告］

〈国有林雲谷の遊々の森の返地に伴う仮設物の撤去〉大学院の平成24年度新入生募集停止に伴って、大学院の実習及び自然学校の指導者養成地としての遊々の森を返地することとなった。このため青森森林管理署の指導を受け、6月1日現地で展望台、空中廊下ほかの仮設物を撤去、材木、ボルト、鎹（かすがい）等を敷地外に運び出し、処分した。大学側からは教授の藤田及び院生2年の氷見山が、協力者として青森大学自然学校修了生の新山隆治氏他6名の手伝いを得て行った。撤去持ち出しのための仮設材は、同自然学校修了生の阿部文博氏の軽トラックを無償で提供頂き、実施している。

今後は、再度青森森林管理署に現場を確認頂き、手直し等をした上で、今年度末に返地の手続きを行う予定である。

［地域活動］

藤田　均

青森県：青森県環境審議会会長、下北半島ニホンザル保護管理対策協議会会長、青森県公共事業評価システム検討委員会委員、青森県内水面漁場管理委員会委員

青森県教育委員会：あおもり体験活動推進会議会長

林野庁東北森林管理局：地域森林計画策定検討会委員

三沢市：仏沼（オオセッカ）保全活用協議会委員

農林水産省：農作物野生鳥獣被害対策アドバイザー登録（青森県スクラム体験推進事業）

[学会発表]

藤 公晴　6 月 3 日　環境社会学会第 45 回大会　発表：ポスト開発主義としての再生可能エネルギー事業の環境社会学、共同発表：西城戸誠、丸山康司、柏谷至、藤公晴

経　営　学　部

[経営学部専門演習(ゼミ)・時事問題合同学習会開催]

去る5月 7 日、図書館視聴覚室に於いて、財務省大臣官房総合政策課長　西田安範氏を迎えて、「社会保障と税の一体改革」をテーマに、講演会と座談会が開催された。戸塚学部長挨拶に始まり、井上による講師紹介、西田氏の講演、川名義章氏（東北財務局青森財務事務所長）司会の座談会と続いた。少子高齢化社会の到来に伴う財政逼迫の話しから始まり、消費税増税の必要性まで、丁寧な説明が行われた。当初、3年生と4年生（希望者）を対象に、約 100 名の参加を見込んでいたが、実際は予想を超える 150 名前後が集まり、準備した資料（120 部）が足りなくなるほど盛況だった。学生にはやや難しいテーマであったとみえて、居眠りやメールをしている学生も少数いたが、大半の学生は資料のページをめくりながら熱心に聴講していた。座談会では 3 名の学生から的確な質問がでた。教員からは「経営学・経済学学習の刺激になり糧となった」、「就職活動に大変役立つ学習会だった」、「大変有意義な企画だった」との声が数多く寄せられた。(文責：井上隆、撮影：中村和彦)

「東日本大震災による被災高校支援活動」　経営学部有志

大震災によって甚大な被害を受けた高校および高校生を支援することを目的としたボランティア活動を開始しました。活動の中心は，ペットボトルのキャップを回収，洗浄し，リサイクル業者の方に買っていただき，それを被災高校に寄付するというものです。本活動は，学内の協力はもとより，学外の方（企業およびコンビニ）の協力を得ながら継続しています。（文責：沼田　郷）

[日商簿記検定試験第130回、131回合格者]

日本商工会議所主催の第130回簿記検定試験が平成 24 年 2 月 19 日（日）に実施され、2 級に 1 名、3 級に 3 名が合格した。

・2 級合格者：経 22042 木村祥哉

・3 級合格者：経 23015 伊藤拓也 、経 23066 中野航希、経 23077 藤井 秀

また、第131回簿記検定試験が平成 24 年6月 10日（日）に実施され、2級に 3 名、3 級に 1 名が合格した。

・2 級合格者：経 21091 安田祐平、経 23084 三浦康弘、経 23087 山谷 統

・3 級合格者：経 24058 三浦雅斗

3 級合格者の 1 年生三浦雅斗君は見事満点で合格した。早くも 2 級に向けての意気込みを見せていた。平成 24年度の検定試験は6月が初めての検定だが、今年度は 2 級に 10 人以上合格することを目標としております。

近年一般学生が減少傾向にあり検定試験で成果をあげるには厳しい環境にあるが、今後大学理念に基づいた親身になっての個々の指導を徹底し、「簿記検定の青森大学」というイメージ・アップを少しずつでも広めていければと考えている。（文責： 恵良二郎）

[平成 23 年度　第 2 回　　日本語能力試験　結果]

(財)日本国際教育支援協会と独立行政法人国際交流基金が主催する「2011 年度第 2 回日本語能力試験」が 12 月 4 日（日）に実施された。この試験は、日本語を母語としない者の日本語能力を測定する試験で、本学の留学生 13 名が岩手大学で受験し、以下の 3 名が最難関の 1 級（N1 レベル）に合格した。

経 20514 黄淑萍　　経 20533 姜牧麟

経 22066 周正馨

日本語能力試験は、留学生にとって就職や進学等に活かせる重要な資格である。今後も補講を充実させ、卒業までの間に一人でも多くの学生が合格できるよう支援していきたい。

（文責：石塚ゆかり）

[中国語検定試験合格者]（江川　静英教授提供）

2012 年 3 月に第76回中国語検定試験が実施され、下記学生が合格しました。

準4級　経営学部 22076　　高橋龍之介

4級　経営学部 22076　　高橋龍之介

[植樹活動参加]（田村早苗教授提供）

5月に環境学概論履修者 15 名が青森市水道部主催植樹活動に参加しました。

[経営学部スポーツ大会]

平成 24 年 6 月 13 日（水）3 限目（12：40）より本学正徳館（第 2 体育館）においてゼミ対抗によるバレーボールを行った。ゼミ毎に整列し出席を取り、開会宣言、戸塚学部長挨拶、ルール説明、準備体操の後試合を開始した。

全 18 チームの参加で、決勝には田村ゼミ・櫛田ゼミの両 2 年生が勝ち上がってきた。ゲームは勿論だが応援する学生の方も白熱していた。審判や得点掲示、用具の準備等にはバレーボール部員に手伝っていただき、またケガ無く楽しく終了できたことに対し関係者には感謝している。

優勝　田村ゼミ（2年）

2位　櫛田ゼミ（2年）

3位　櫛田ゼミ（3年）

〃　　石川ゼミ（1年）（文責：中田吉光）

[人物往来]（文責　戸塚茂雄）

2011 年度末永洋一教授・学長、青木正久教授が退職されました。末永前学長は、1974 年の赴任以来産業研究所、総合研究所の所長、研究紀要の編集長を多年にわたってされ、経営学部、大学に多大な貢献をされました。6 月に名誉教授に推戴されました。青木教授は、1991 年赴任され 20 年間教育に尽力されました。長年にわたる経営学部の発展に対し末永教授、青木教授に感謝申し上げます。

本年度青森短期大学から中田吉光准教授をお迎えしました。経営学部の発展にご尽力願います。

[著書、論文、研究ノート、評論・書評、翻訳、寄稿、調査報告書など]

櫛田　豊　・佐賀大学飯盛信男教授退官記念号への寄稿論文

「サービス商品の共同生産過程―飯盛教授の拙論批判への回答―」

（佐賀大学『経済論集』第 44 巻第5号, 2012 年 3 月）

田村早苗　・1月　「山林」（大日本山林会発行月刊誌）「みちのく森の聞き語り」第9回

・2月　平成 23 年度「緑の雇用」現場技能者育成対策事業の評価に関する調査報告書.全国森林組合連合会.（分担執筆）

「山林」（大日本山林会発行月刊誌）「みちのく森の聞き語り」第 10 回

・3月　「山林」（大日本山林会発行月刊誌）「みちのく森の聞き語り」最終回

中田和一　・国交省公募事業「ITS スポット周辺における災害情報に関する社会実験報告書」青森 ITS 推進研究会 平成 24 年 3 月

・「電波特性の監視に関する研究（ILS 近傍モニタに関する研究）報告書）」（独）電子航法研究所・平成 23 年 12 月

中村和彦　・「レコード・レーベルの変遷□～レーベルのブランド価値と M&A とを中心として～」青森大学・青森短期

大学『研究紀要』第 34 巻第 3 号、pp.179-216. 2012 年 2 月

沼田　郷　・「台湾デジタル・スチル・カメラ産業の台頭」日本大学経済学部経済科学研究所『紀要』、第 42 号, 2012 年3月

・書評　関志雄著「チャイナ・アズ・ナンバーワン」東洋経済新報社(『研究紀要』青森大学・青森短期大学学術研究会, 第 34 巻　第3号, 2012 年 1 月)

・東奥日報社 「ニュース力アップ」 2012 年 4 月より隔週連載。

[学会報告、学会活動など]

戸塚茂雄　・「過剰富裕化論の学説史的考察―形成、展開、意義」馬場宏二追悼研究集会、東京大学社会科学研究所、2012 年 6 月 16 日

岩淵　護　・「ASEANネットワーク構築と日本のモノづくりー日系製造業における製造観の変化についての一考察ー」、工業経営研究学会　2011年度海外企業視察ワーキングペーパー報告会、2012年6月2日(於:中央大学後楽園キャンパス)

沼田　郷　・2012 年 6 月 30 日～7月 1 日　第 16 回アジア市場経済学会全国大会(於:近畿大学)

・報告　デジタル・スチル・カメラ生産における新潮流

・多国籍企業学会監事(2011 年7月～2013 年7月)

石塚ゆかり　・「ことばの力□心の通うコミュニケーションを目指して」国際和合医療学会、第 9 回国際和合医セミナー、於:青森市民文化会館、6 月 17 日

[社会活動]地域貢献・講演など]平成 24 年 1 月～6 月

赤坂道俊　平成 24 年 12 月 8 日　第三回高大連携合同協議会、アラスカ

平成 24 年 3 月 55 日　第七回青森地方最低賃金審議会、於:ラプラス・青い森

平成 24 年 3 月 12 日　青森県独立行政法人高齢・障害・求職者雇用支援機構運営協議会(会長)、於:青森県独立行政法人高齢・障害・求職者雇用支援機青森職業訓練支援センター

井上　隆　2月　青森市都市整備部・ウォーターフロント活性化検討委員会、委員長、青函連絡船メモリアルシップ八甲田丸 (2/3)

2月　青森市中心市街地活性化協議会、副会長、青森商工会議所(2/3)

2月　青森県環境生活部、青森県男女共同参画アドバイザー(再任)(2/8)

2月 『あおもりウォーターフロント活性化ビジョン』報告会、青森市役所市長室(2/9)

2月　国交省青森河川国道事務所、平成23年度・青森県道路交通環境安全推進連絡会議、<事故ゼロプラン推進状況について>結果報告会(2/10)

2月　RABニュースレーダー、コメンテーター '青森県・平成24年度予算案の特長と課題'(2/22)

3月　青森市都市整備部・青森市総合都市交通対策協議会(3/30)、会長、福祉増進センター

4月　あおもり県民政策ネットワーク運営委員会(H24年度第1回)、青森銀行新町ビル

5月　談話'検証　暴風雪　国道279号立ち往生'に寄せて.『東奥日報』5月4日付.

5月　青森市都市整備部、青森みなとまちづくりミーティング準備会、座長 青函連絡船メモリアルシップ八甲田丸 (5/10)

5月　青森市中心市街地活性化協議会総会(5/30)、副会長、青森国際ホテル5F・芙蓉の間

5月　法務省青森地方法務局、乙号事務評価委員会、委員(再任)

6月　東北財務局青森財務事務所、財務行政モニター会議(6/13)、委員、青森合同庁舎

6月　青森市都市整備部、青森みなとまちづくりミーティング準備会(第2回)、座長 青函連絡船メモリアルシップ八甲田丸 (6/14)

6月　青森市中心市街地活性化協議会運営委員会、副会長、青森商工会議所(6/22)

6月　NPO法人ひろだいリサーチ、通常総会、弘大大学院地域社会研究科演習室(6/30)

江川静英　2 月 17 日　11 年度幸畑小学校評議員会議

4 月　1 日　幸畑小学校評議員再任

6 月 22 日　12 年度幸畑小学校評議員会議

3 月 26 日　21 あおもり総合支援センター理事会　理事

6 月 9･10 日　国際服飾学会･理事会　大妻女子大学

6 月 29 日 「女性の生き方について」講演　明の星高校

田村早苗　1 月　日本森林林業振興会理事会（東京）

2 月　青森県循環型社会形成推進委員会（青森市）

3 月　林野庁入会林野中央コンサルタント会議（東京）

青森県土地改良事業団研修会講演（青森市）

農林水産省独立行政法人評価委員会林野分科会（東京）

5 月　青森県公共事業評価システム検討委員会

6 月　東北森林管理局白神山地周辺の森林と人との共生活動に関する協議会（鰺ヶ沢町）

農林水産省独立行政法人評価委員会林野分科会（東京）

中田和一　1 月　あおもり ITS 推進研究会座長（平成 23 年度第 2 回）しあわせプラザ

2 月　国交省公募事業「ITS スポット周辺における災害情報に関する社会実験」意見交換会（国交省、あおもり ITS 推進研究会）青森三菱電機ビル

3 月　あおもり ITS 推進研究会座長（平成 23 年度第 3 回）ワラッセ会議室、

3 月　青森市総合都市交通対策協議会分科会委員（平成 23 年度第 3 回）しあわせプラザ

5 月 「ITS 地域交流会 in 青森」開催打ち合わせ会議（ITS Japan、青森市役所、あおもり ITS 推進研究会）青森三菱電機ビル

6 月　ITS Japan　平成 24 年度総会　経団連会館(東京)

岩淵　護　講演「自動車産業のエレクトロニクス化と情報化－社会資本活用と戦略的アプローチより捉えた一考察－」、㈱ルネサス北日本セミコンダクタ　技術者講演会、2012年3月23日（於：津軽工場大会議室）

石塚ゆかり

1 月 28 日 「中上級学習者の知的好奇心を満たす工夫」日本語教育ボランティア養成講座、青森県国際交流協会

5 月 17 日 「外国語としての日本語」黒石ロータリークラブ定例会講和

4 月 10 日～6 月 26 日（全 6 回）「中級韓国語会話」在日本大韓民国民団青森地方本部

社　会　学　部

社会学科

[2011年度の卒業論文発表会を開催]

1 月 24 日、2011 年度の学生研究発表大会 (主催・青森大学学術研究会) が、図書館視聴覚室において開催された。同大会では卒業論文の成果について、4 年生 6 人が以下のテーマで発表した。

1. 加賀　敬史（石橋ゼミ): 「ゴジラ」から考える日本人の「核」に対する意識の変化
2. 東梅　早奈恵（石橋ゼミ): 日本女子サッカーにおける課題と今後の展望
3. 丸山　耕生（工藤ゼミ): 青森市における観光ビジネスの良質化のための方策に関する考察

4. 木村 大悟（奈良ゼミ）：農を中心とした地域活性化を探る―農業法人羽白開発の活動事例を通して―
5. 玉熊 正也（柏谷ゼミ）：様々な主体の連携による公共交通の活性化
6. 太田 翔（柏谷ゼミ）：大鰐町デマンドバス新予約システムの分析と考察

今年度も、今日的な社会問題や地域社会の問題解決を志向した多彩なテーマの報告となり、発表後は、質疑応答が活発に行われた。

[平成23年度 社会福祉士・精神保健福祉士の国家試験結果]

3 月 15 日平成 23 年度の社会福祉士および精神保健福祉士の国家試験の合格発表があった。本学関係の合格者数は以下の通りである。

	現役受験者	合格者 (%)	既卒者含む受験者	合格者 (%)
社会福祉士	7	0 (0%)	177	17 (9.6%)
精神保健福祉士	4	2 (50%)	22	3 (13.6%)

今回の合格率は残念ながら芳しくなかった。このため平成 24 年度は、前期に 4 回の模擬試験とそのデータに基づく個別指導を行って、夏季休業中の集中補講につなげ、後期には自主学習する環境づくりを進めることになった。

また、指定科目の担当教員は、定期試験で過去問題や模擬問題を取り入れ実施することで、学生の受験への意欲の喚起と試験対策の準備を醸成することとした。これらの取り組みを通じ、今後の合格率向上につなげたいと考えている。(国家試験対策委・藤林)

[2012年第5回 スペシャルオリンピックス日本 冬季ナショナルゲーム・福島]

社会学部の学生を中心とするサークル「スペシャルオリンピックス Liberty」が、スペシャルオリンピックス青森選手団を支援する活動を行っている。

「スペシャルオリンピックス」(SO) は、知的発達障害のある人たちに、日常的なスポーツトレーニングとその発表の場である競技会を提供する国際組織である。2 月 10 日（金）～12 日（日）、福島県猪苗代町において冬季ナショナルゲーム (全国大会) が開催され、青森県からはアルペンスキーに出場する 10 選手を含む 15 名の選手団が参加した。

出場選手のモヤヒルズでの練習を支えたのが Liberty のメンバーである。在学生や卒業生、その友人等が協力し合い、さまざまな障害を抱える選手それぞれのペースに合わせながら、毎週日曜日の午前中、2 時間程度の練習を支援してきた。

ナショナルゲームで青森選手団は、金メダル 1、銀メダル 2、銅メダル 1 の計 4 個のメダルを獲得することができた。2013 年には韓国で冬季世界大会が行われることになっており、青森選手団から 2 名の選手が日本選手団として出場する予定である。

SO の大会では出場した選手全てにメダルまたはリボンが与えられる。惜しくもメダルを逃した選手も今大会のロゴが入ったリボンを掛けてもらい、どの選手も皆誇らしげな表情をしていたのが印象的でだった。これからも Liberty は SO の活動をサポートしていきたいと考えている。(Liberty 顧問／SO 日本・青森事務局長 宮川)

[新生・社会学科がスタート]

4 月から、社会学コースと社会福祉学コースの 2 コースからなる新しい社会学科がスタートし、新入生 46 名を迎え入れた。

従来の社会福祉学科に代わって社会学科が、社会福祉士および精神保健福祉士の養成校としての指定を受け、これにあわせてカリキュラムの全面的な見直しを行ったものである (なお、従来の介護福祉士養成課程は平成 23 年度入学者の卒業をもって廃止される)。あわせて図書館司書の養成課程を設置 (詳細は別項を参照) し、学生の多様なニーズに対応できるようにした。

今年度から数年間は移行期間となり、学年ごとに複数のカリキュラムが併存することになる。担当者の負担は大きいが、従来の専門領域を越えた教育の充実や学生・教員の交流を図ってゆきたいと考えている。(学科長・柏谷)

[司書養成課程を新たに設置]

司書養成課程を、今年度（2012 年度）、社会学部社会学科に設置した。同課程設置により、司書の資格を社会学科で取得できるようになった。

司書資格を取得するために履修が必要な科目は、全部で 13 科目 (計 24 単位) である。社会学部以外の学部に所属する学生も、この 13 科目を社会学科で履修することにより資格取得が可能である。

司書資格を持っていると、図書館以外の職場においても情報探索・資料管理などのスキルを生かすことができ、学生の就職後に有益となる。情報社会に有効な資格である。 (司書養成課程担当者・工藤)

[4年生・就職活動を励ます会を開催]

今年度の新しい企画として、「4 年生の就職活動を励ます会」が 4 月 18 日（水）2 時間目に 350 教室にて行われた。この会の発案者である菅学部長などから激励の言葉が社会・社会福祉の 4 年生に熱っぽく語られたほか、すでに内定をとった 4 年生 3 名からは内定をとるにあたって重要なことは何かなど、自分の経験を踏まえた方策が発表されました。今後の就職活動に大いに役立つ内容だったと思われる。(就職委員・佐藤豊)

[社会調査士9名が認定]

一般社団法人社会調査協会の認定する社会調査士資格の認定結果が 6 月 1 日に公表され、本学からは新たに 9 名の社会調査士が誕生した。

この資格は社会学科で開講する所定の科目を履修することで、卒業後に社会調査士の資格を得るものである。これで本学出身の社会調査士は 37 名となった。2004 年に制度を導入し、2008 年に初の認定者を出して以来、本学では毎年着実に認定者数を増加させている。(社会調査士委員・佐々木)

[学術論文・著書] (五十音順)

久慈きみ代 2012「寺山修司 空白の半年—古間木中学校から青森野脇中学校への転校はいつか?—」『寺山修司研究』5, 文化書房博文社.

佐藤　豊 2012「メダルの表裏に描かれた事実とは何か—ドライデンの『メダル』を読む—」松島正一編『ヘルメスたちの饗宴』音羽書房鶴見書店, p.110-128.

藤林正雄 2012「バウンダリーを理解する」「逆抵抗の防止」日本精神保健福祉士協会編集『新・精神保健福祉士養成講座8 精神保健福祉援助演習 (基礎・専門)』p.128-131, 132-135, 中央法規出版 (分担執筆).

藤林正雄 2012「バウンダリーを理解する」「逆抵抗の防止」日本精神保健福祉士協会編集『新・精神保健福祉士養成講座8 精神保健福祉援助演習 (基礎・専門) 教員指導ガイド』p.28-29, 30-31, 中央法規出版 (分担執筆).

[学会発表] (五十音順)

柏谷　至　西城戸誠・丸山康司・柏谷至・藤公晴「ポスト開発主義としての再生可能エネルギー事業のための環境社会学」環境社会学会第45回大会 (秋田県大潟村) 自由報告, 2012年6月3日.

中村和生　エスノメソドロジー＆会話分析研究会 春の例会 書評セッションにおいてコメンテーターとして登壇、発表 (明治学院大学), 2012年3月31日.

中村和生　「科学実践への社会学的アプローチ」(ワークショップ『哲学と社会学のコラボレーションのために(□)』) 応用哲学会大会 (千葉大学), 2012年4月22日.

[報告書・書評・寄稿など] (五十音順)

柏谷　至　「参加と協働を通じた地域づくり～NPOに学ぶ活動活性化のヒント～ 」明るい選挙推進協会(編)『平成23年度協会フォーラム講演録「地域活動」』財団法人 明るい選挙推進協会, 2012年, p.139-171. (2011年11月17日に青森市で行った講演の講演録).

澁谷泰秀　渡部 諭・澁谷 泰秀 2012「犯罪被害に遭いやすい高齢者の認知バイアス- 高齢者はなぜ犯罪に狙われやすいか」社会安全研究財団2010年度助成研究最終報告書，A4版23ページ，2012年1月提出.

[学術活動・助成研究など] (五十音順)

柏谷　至 (研究代表者), 澁谷泰秀, 中村和生, 佐々木てる
「環境配慮行動における文化的フレームと意思決定モデルとの統合的アプローチ」文部科学省科学研究費 (基盤研究C), 2012～2014年度, 4,200千円 (総額).

柏谷　至　後藤範章 (研究代表者) ほか「原発事故に伴う広域避難と支援の社会学―『転換後』の社会像と生き方モデルの探求」文部科学省科学研究費 (挑戦的萌芽研究), 2012～2013年度, 2,800千円 (総額).

澁谷泰秀　渡部諭 (代表研究者)・澁谷泰秀・吉村治正「社会情動的選択性から見た高齢者のソーシャルネットワークの研究」文部科学省科学研究費 (基盤研究C), 2012～2014年度, 4,680千円 (総額).

澁谷泰秀 (代表研究者)・吉村治正・渡部諭「高齢者の社会情動的選択性とリスク志向性が及ぼす生活の質への影響」文部科学省科学研究費 (基盤研究C), 2011～2012年度, 4,680千円 (総額).

澁谷泰秀　吉村治正 (代表研究者)・澁谷泰秀・渡部諭「郵送・インターネットによる実験的な職歴調査の実施」文部科学省科学研究費 (基盤研究C), 2011～2012年度, 5,200千円 (総額).

澁谷泰秀　渡部諭 (代表研究者)・澁谷泰秀「振り込め詐欺被害に遭いやすい高齢者の認知バイアスの研究－社会情動的選択性理論からの認知心理学的研究－」財団法人 三井住友財団助成研究, 2011～2012年度, 600千円 (総額).

澁谷泰秀 (代表研究者)・渡部諭「高齢者犯罪を防止するための再帰属プログラムの開発・研究」公益財団法人 三菱財団, 2009年11月～2012年10月, 1,800千円 (総額).

[出張講義・講演など] (五十音順)

柏谷　至　「地球とお財布にやさしい省エネのすすめ」青森大学出張講義, 大鰐町連合婦人会, 2012年4月13日.

藤林正雄　「いのちの電話活動から」青森大学出張講義, 鶴田町自殺予防傾聴講座, 2012年3月12日.

藤林正雄　「相談技法入門」青森大学出張講義, 平内町社会福祉協議会, 2012年3月29日.

藤林正雄　「人間関係で悩まないために」青森大学オープンカレッジ, 2012年4月20日.

藤林正雄　「傾聴ボランティア講座」全3回, 野辺地町, 2012年1月31日・2月14日・3月13日.

藤林正雄　「いのちの電話カウンセリング講座」全4回, あおもりいのちの電話, 2012年5月19日～6月9日.

藤林正雄　「精神医療の歴史と精神保健福祉法～患者の人権～」日精看青森県支部, 2012年6月23日

[地域活動] (五十音順)

柏谷　至　青森県明るい選挙推進協議会 委員 (2012年4月から)

久慈きみ代　2012年5月4日、三沢市寺山修司記念館の「修司忌」に参加。青森大学演劇団「健康」及び文芸部「幸畑文学」の学生3名（筒井志帆・柴田葵・海沼有紗）が約150人の寺山ファンを前にして寺山修司の詩を朗読をした。照明スッタフとして萱森由介 (健康顧問)、周宗瑾 (社会学科4年) も参加。学生たちの朗読は来館者に好評であった。5月5日付けの東奥日奥新聞で写真入りで大きく報道され、参加学生たちの貴重な体験となった。

「誰にでもわかる源氏物語」(昨年の講演) が朝日新聞の青森版の「あおもりブレーン・トーク□20「津軽の古民家」対馬逸子で紹介される (2012年5月23日)

昨年立ち上げた「あおもり古典を楽しむ会」は、『伊勢物語』を読了して、今年度は『紫式部日記』に入り、順調な活動をみせている。

菅　勝彦　　青森地方最低賃金審議会会長、青森地方労働審議会会長、青森労働局・労働関係紛争担当参与、青森県「攻めの農林水産業賞」選考委員、青森県医療費適正化懇談会委員、青森県中山間地域対策協議会委員、青森県NIE研究会会長、青森県NIE推進協議会副会長、日本自動車連盟青森支部交通安全実行委員会委員長、「新青森市史」編纂・執筆協力員

東奥日報「ニュース力アップ」連載 (2012年3月まで)

藤林正雄　　青森県精神医療審査会委員、青森県運営適正化委員会 (苦情解決部会) 委員、青森県福祉サービス第三者評価推進員会委員、青森県精神保健福祉士協会理事、青森県老人福祉協会理事

ソフトウェア情報学部

ソフトウェア情報学科

[石田准教授が博士の学位を取得]

石田 努 准教授が学位論文テーマ「GF(p)上における乗法的逆元の計算高速化に関する研究」で、平成24年3月に博士(工学)（弘前大学）の学位を取得しました。

[人事往来]

昇格： 橋本 恭能　 准教授（講師から）

[平成23年度卒業研究発表会]

例年年度末に行われている卒業研究発表会が、2月13日（月）9:00～14:00に本学5号館5102教室で実施された。発表は、11研究室に所属して情報システム、ＣＧ・マルチメディア、ロボット・組込みシステムの各々の分野で取り組できた19のテーマについて、実演を交えながら行われた。これらのテーマは、3年の創作ゼミナールから継続して行われてきたものや4年になり新たにスタートしたものなどがあり興味深いものであった。また、この発表に対して、学生、教員から多くの質問が出され、活発な質疑応答が行われた。

[小山君が基本情報技術者試験に合格] (李 孝烈)

本学部3年生の小山智也君が平成24年4月15日に実施された基本情報技術者試験に合格した。学科の資格取得対策のためのカリキュラムである「ソフトウェア情報学特講」を2年次に受講した成果が現れた。今回の受験者数は52582名、合格者数は12437名であり、合格率は23.7%という難関を見事に突破した。

[和島研究室で開発した太陽系シミュレータのテレビ報道 5/17] (和島 茂)

NHK青森放送局の「あっぷるワイド」で、2009年度卒業生の畑本義明君が卒業研究で開発した「太陽系シミュレータ」が紹介された。教員による日食の原理の説明のあと、ソフトウェア情報学部の4名の学生も出演して操作などを行い、5月21日の金環日食を再現した。

[青い森のメディアアートワークショップ 2/19-20, 3/2-3] (小久保 温、角田 均)

文化庁メディア芸術人材育成支援事業「青い森のメディアアートワークショップ」が開催され、ソフトウェア情報学部の1年生～4年生の12名が3つのチームで参加して、Androidアプリを制作した。

弘前のteco LLCを会場に、アーティストの講師による指導を受けながら、地域を活かしたアプリの開発に取り組んだ。開発したアプリケーションは成果展示として、青森駅前のA-Factoryで3/16-20、東京日本橋のCREATIVE HUB 131で3/23-25に一般公開された。

[黒石商業高校との連携による課題研究] (小久保 温、角田 均、メネンデス フランシスコ、和島 茂)

青森県高等学校教育研究会商業部会との高大連携の一環として、黒石商業高校の情報処理科とソフトウェア情報学部の4研究室が共同で「バーチャルリアリティマップの制作」の課題研究に取り組んでいる。黒石商業高校情報処理科の3年生が、本学の開発によるOctPhotoVRのシステムを用いて黒石市の観光情報を疑似的な3次元のマップとして構築する取り組みで、平成26年度の完成を目指している。研究室の学生(3,4年生)が講師役として高校生を指導、サポートし、資料作成やデータ準備も学生主体で進めている。事前準備として3/21に黒石商業高校の情報科2年生39名を対象にOctPhotoVRのセミナを実施、システムの使い方やデータの作成方法を紹介した。さらに5/8には今年度課題研究に取り組む3年生のグループを対象に、現地での撮影を含めたフォローアップセミナを実施している。

[二輪ロボットモデリング実践研修 3/14-16]（橋本 恭能）

東北6県が連携して実施している「平成23年度東北地域IT関連産業活性化人材育成事業」の一環として「二輪ロボットモデリング実践研修」が東北各県で開催された。青森市では平成24年3月14日（水）から16日（金）にかけて、青森大学を会場に行われ、研修講師をソフトウェア情報学部橋本講師が務めた。また受講生として学内から6名の学生、学外から4名の方が参加した。

研修では、教育用レゴマインドストームNXTを使用したロボットレースを課題として、システム開発工程（分析、設計、実装、テスト）全体を体験し、UML（統一モデリング言語）を使って開発対象となるシステムの仕様を抽象化し、複雑なシステム全体を可視化する技術を学んだ。さらにC言語を使ったロボットの動作プログラムを作成した。

[研究発表]

菅野駿哉、Menendez Francisco Javier、角田均、「3DGISにおける建物モデルの表示高速化」芸術科学会東北支部大会(岩手大学, 1/6)

Menendez Francisco Javier、小久保温、角田均、三上一(青森環境管理事務所)「3D GISによるBODの長期評価」、第46回日本水環境学会年会ノンポイント汚染研究委員会(東洋大学, 3/14-16)

[学会発表]

小久保温、角田均、和島茂、「視覚障害者が楽しむことができる「触れる絵画」の制作」芸術科学会芸術科学フォーラム2012(東京工芸大学中野キャンパス芸術情報館、3/16)

三上一(青森環境管理事務所)、小久保温、角田均、「3D GISシステム「デジタル青森」による岩木川水

系の水質の可視化と評価について」、第46回日本水環境学会年会(東洋大学, 3/14-16)

角田均、和島茂、「航空写真の簡易的なオルソ化と３次元地形テクスチャの生成」、写真測量学会平成24年度年次学術講演会(東京大学生産技術研究所, 5/21-22)

[研究報告書]

小久保温、角田均、和島茂、AIT2012-69「視覚障害者が楽しむことができる「触れる絵画」の制作」映像情報メディア学会技術報告 Vol.36, No.16, pp.125-128、2012年3月

三上一(青森環境管理事務所)、小久保温、角田均、「3D GISシステム「デジタル青森」による岩木川水系の水質の可視化と評価について」第46回日本水環境学会年会講演集p.6
角田均、和島茂、「航空写真の簡易的なオルソ化と３次元地形テクスチャの生成」写真測量学会平成24年度年次学術講演会発表論文集pp.133-136

[講演]

小久保温、「すばやく小さくはじめられるHTML5×CSS3×JavaScriptで青森のコンテンツをつくる」CSS Nite in AOMORI, Vol.6 with Microsoft(アスパム、4/28)

[研究資金]

小久保温、吉村治正(奈良大学)、渡部諭(秋田県立大学)、電気通信普及財団「インターネット社会調査と多様化する情報端末?スマートフォン、タブレット端末時代の社会調査に向けて?」平成23、24年度各年60万円ずつ(平成24年度は予定)

小久保温、青森県平成23年度視覚障害者向け障害者アート作品研究開発業務、91,664円、内容は触れる絵画の研究開発

薬学部

［薬学部から］（薬学部長　熊崎　隆）

4月から薬学部長に就任しました。須賀哲弥先生、渡邊隆史先生に続き 3 代目ということになります。平成 16 年に青森大学薬学部が開設されて 8 年が経ちました。4 年制度最後の 2 年間、新制度になってからの 6 年間は変革の時期であり、我々教員にとっても共用試験、長期実務実習などいつも初めて経験することの連続でした。しかし、教職員の粘り強い努力によって山積する課題を1つ1つクリアして現在の基礎が作られたと考えています。平成 23 年度末までに 290 名が本学から薬剤師として巣立ち、多くは地元青森県を中心に活躍しています。

さて、現在の本学部の抱える課題は、学力面で多様化する入学生に対してそれぞれに見合った指導をいかに行うか、とりわけ基礎力をいかに身に付けさせるかに尽きると言っても過言ではないでしょう。これには「あー、そうだったのか」という体験をできるだけ早い時期にもたせることが大切で、これにより専門科目の内容修得が容易になります。ここで大切なことは教員の辛抱・忍耐でしょう。この薬学部から辛抱強く頑張る人材を一人でも多く輩出していきたいと考えております。どうぞ、よろしくお願い致します。

［新入生オリエンテーション］（清川繁人）

昨年度より新入生オリエンテーションの宿泊が廃止されたのに伴い、薬学部では1年生対象の授業「薬学セミナーⅠ」を利用し、2週にわたってスモールグループディスカッションと自己紹介を実施しました。

初日はグループ分けの後グループ内で自己紹介を行い、次にグループ名とグループのスローガン、出し物の内容についてディスカッションしてもらいました。2日目は各グループによる出し物で盛り上がった後、クラスメイトへのメッセージを書かせた紙を持たせ、一人一人の写真を撮影して全員の顔写真を後日配布しました。

以上の実施により、宿泊を実施した時と比べてもクラス内の融和が一層進み、和やかな雰囲気が形成されたと感じられます。

［早期体験学習］（学部長記）

薬学部1年生の早期体験学習が6月13日（水）と20日（水）の2回にわたり例年通り実施された。病院薬局の場合は、弘前大学医学部付属病院、青森県立中央病院、青森市立病院の3か所を7～8名のグループで、保険薬局の場合は、青森市内の11か所を2名ずつで訪ね、薬剤師の先生から仕事の内容などの説明を受けた。病院訪問の引率者： 伴場、清川、門馬、保険薬局の場合は引率なし。一方、6月27日（水）には青森市農業指導センター・薬用植物園を訪問し、園内で育てられている多くの薬用植物を実際に見て、その薬効などについて勉強した。

これらの体験学習は薬学部新入生の薬学あるいは薬剤師業務に関するモチベーションを高める、あるいは維持するために実施されるものであり、6年制薬学部教育の初年度教育にとって重要な位置を占めるものである。

［第51回日本薬学会東北支部大会について］（大会事務局　齋藤俊昭）

第51回日本薬学会東北支部大会が下記の要領で本学にて開催されます。

特別講演、一般講演（部会発表）

日　　時：　平成 24 年 10 月 7 日（日）　午前 9 時より

会　　場：　青森大学（青森市幸畑 2-3-1）

参 加 費：　日本薬学会会員 3,000 円、大学院生 1,000 円、学部生 無料、
非会員および当日申込み 4,000 円

主　　催：　日本薬学会東北支部

後　　援：　青森県病院薬剤師会

大会は特別講演と一般学術講演で構成され、ランチョンセミナーも催されます。特別講演は「合理的分子設計に基づく創薬化学研究」と題し、北海道大学薬学研究院教授　周東　智先生に最先端の創薬研究に関するご講演をしていただきます。一般学術講演では、薬学の特徴である基礎科学から地域医療に至るまでの幅広い分野におよぶ研究

成果の発表がなされ、活発な議論が行われます。とりわけ大学院生や学部高学年生にとっては学会デビューの場として活用されております。今大会では、特に学部学生の卒業研究や実務実習の成果発表の場としてこれまで以上に支部大会を活用して頂くためにポスターセッションも用意しました。さらに、ランチョンセミナーは「世界が 5 番目の基本味として認めたうま味の魅力」 と題し、市民講座として本学教授　栗原堅三先生にご講演していただきます。

このように、支部大会は薬学の教育・研究に携わる者のみならず、学生、日々臨床現場で奮闘する薬剤師、医療や薬、疾患等々に興味を持つ一般市民の方々にも開かれたものであり、日本薬学会の公益社団法人としての社会貢献活動の1つであります。

薬学部は本大会を成功させるために一丸となって鋭意努力しております。青森大学・青森短期大学の皆様におかれましても、より多くの方にご参加、ご協力をいただけますようお願い申し上げます。

[学会発表]

1. 井上咲子、大髙幸子、緒方正裕、後藤郁子、齋藤亜由子、松尾眞理子、山本章二、西川哲史、村松薫:東日本大震災における現場の対応と今後の災害に対する対策・要望について　青森県薬剤師会学術大会
2011 年 10 月(青森)

2. 緒方正裕、岡健太郎、田中守:ビタミン E とカプサイシン二量体の生物活性　第 23 回ビタミン E 研究会
2012 年 1 月(東京)

青　森　短　期　大　学

[第 19 回　寺山修司忌への参加]

5 月 23 日（水）10:30 より第 19 回寺山修司忌が開催された。思い起こせば平成 6 年 5 月 18 日に寺山修司歌碑除幕式が行われて今回で 19 回目を迎えた。歌碑建立にあたっては青森短期大学開学 30 周年の記念事業として行われ、寺山修司さんがご生前お好きだった「忘名草」の花を飾って歌碑の除幕を行われたことを思い出します。

本学としてこの式典に出席するのは最後となったが、青森大学の校歌として歌い続けていただけることに喜びを感じるところである。

（部長　宍戸聡純）

[保育実習 Ⅱ・Ⅲ]

保育実習 Ⅱ 又は Ⅲ が青森市、五所川原市の保育所や児童館・情緒障害児短期治療施設など 13 か所で平成 24 年 6 月 4 日～7 月 20 日の 10 日間のスケジュールで行われている。

[子ども専攻活動]

ＪＡＦ交通安全ミュージックキャラバン隊ドレミぐるーぷ公演

・平和台保育園　　平成 24 年 5 月 11 日（金）
　　10:00～10:30

・大釈迦保育園　　平成 24 年 5 月 18 日（金）
　　10:30～11:00

・野木和保育園　　平成 24 年 5 月 25 日（金）
　　10:30～11:00

歌や大型紙芝居等で交通安全啓発活動を行い、子どもたちの交通事故防止に寄与。

（子ども専攻主任　今村百合子）